

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



February						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	>			

February 2023 vol.106

◆ 善光寺（地震塚）

所在地：長野県長野市元善町

交通：JR 信越本線「長野」駅北約 2km

信州善光寺は、絶対秘仏の本尊が仏教公伝の際に百済の聖明王から贈られたと伝わり、古くから篤い信仰を集めてきました。戦国武将による岐阜伊奈波や尾張甚目寺などへの本尊の流転を経て、慶長6（1601）年、徳川家康から寺領を安堵（承認）され現在に至ります。著名な寺社が女人禁制の時代にあって、女人救済が掲げられ、「一度参詣すれば極楽往生が叶う」との信仰があったことや、街道が整備された江戸後期には寺社参詣を理由に旅に出やすかったことなどから、伊勢と並んで庶民の参詣が盛んでした。特定の檀家はおらず、無宗派の単立で、現在は天台宗と浄土宗の僧侶により護持されています。

江戸時代末期の弘化4年3月24日（1847年5月8日）午後10時頃、善光寺の北約5kmを震源とするマグニチュード7.4の善光寺地震が発生しました。折しも善光寺では常念仏65,000日を記念して、前立本尊の御開帳が3月10日から執行されており、境内や門前町は全国からの参詣者で賑わっていました。地震による火災で善光寺周辺は3日にわたり燃え続け、境内では駒返り橋から南の大本願、46の宿坊と仁王門などが燃え、本堂、経蔵、山門、鐘楼、萬善堂を除いた建物は倒壊・破損または焼失、門前町は現在のセントラルスクエア付近まで全焼しました。

山門東の地震塚（地震横死塚）は、塔身に金剛界の四方仏が刻まれた高さ約4mの宝篋印塔で、身元がわからない犠牲者の菩提を弔うために建立されたものです。発願者の

土屋仁輔徳昆は上田の豪商で、地震発生の際の報を受けるやいなや「番頭女中、出入職人を引き具し、大八車十台に米味噌醤油衣料の救援物資を満載して十里（約40km）を駆けつけ、後続いて米、其の他の物資を追送。遺体の収容処理に際し、各死者の耳を採り大壺に入れおさめ埋め、その上に碑を建てた」とされ、徳昆の第二子昭徳の妻やす女は折にふれ、この耳塚（地震塚）の由来を語ったそうです。

善光寺地震全体の犠牲者は8,000人以上と推定され、このうち善光寺領では2,500人余が犠牲になった、あるいは、7,000～8,000人の参詣者のうち生き残った者およそ1割、などと言われています。地震塚には善光寺領での犠牲者とはほぼ同数の遺骨が埋葬されていると伝えられています。

明治29（1896）年には、徳昆の意を守り続けた孫の嘉右衛門により、50回忌の追善供養が行われました。また、平成9（1997）年には大地震150年と御開帳を機に、善光寺により改葬されました。すぐ隣には、当時の大勸進貫主・山海が寺内僧侶、寺役人らとともに法華経、阿弥陀経、光明真言の経文を石に1字ずつ書写し、犠牲者の極楽往生を祈って弘化5年2月に建てた、一字一石供養塔があります。

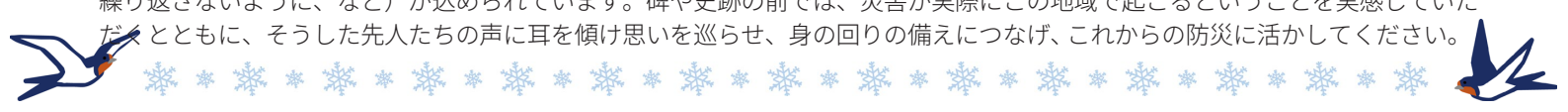
善光寺境内にはこのほかにも、地震塚と同型・同寸大で、犠牲者の分骨埋葬場所に建つ「関東大震災横死塚」や、東日本大震災犠牲者の追悼と復興支援のため、陸前高田市の高田松原の倒木から謹刻された「おやこ地藏」などがあり、それらすべてへ、両宗による法要が現在も続けられています。



地震塚



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたかとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

● 妙喜寺 (vol.21,2016.1)

所在地：西尾市江原町

交通：名鉄西尾線「西尾口」駅東約2.5km

昭和20(1945)年の三河地震は戦争中の地震で、当時は多くの児童が地方の寺院などに疎開していました。妙喜寺も疎開先のひとつで、名古屋市中区の大井国民学校(現・平和小学校)から、約30人の児童を受け入れていました。

三河地震が襲ったのは昭和20年1月13日の午前3時38分です。マグニチュード6.8の直下型地震で、愛知県では最大震度7を記録し、江原町では136世帯のうち半数以上が全壊、約60名が犠牲になっています。妙喜寺では、激しい揺れによって本堂と庫裏が倒壊しました。地震の発生は夜中で、本堂には大井国民学校から疎開していた児童と教師が寝ていましたが、地震により倒壊した建物の下敷きになり、児童12名と教師1名が命を落としています。

本堂を失った妙喜寺では、すぐに仮本堂が建てられ、毎年1月13日には犠牲者を悼む法要が行なわれてきました。その後、平成15年になり本堂が再建されますが、それまで使われていた仮の本堂は残され、現在では亡くなった疎開児童を供養する地蔵が納められています。

妙喜寺には、地震の際にできた10メートルにも及ぶ地割れ跡も残されています。現在では、この生々しい地震の記録が風化しないようにと地割れ跡の上に上屋を設け保存されており、地震の激しさを示す遺構として残されています。寺は放課後の遊び場として小学生に開放され、毎週たくさんの児童が訪れており、保存された地割れを見て震災のことを初めて知る子どもも少なくないということです。



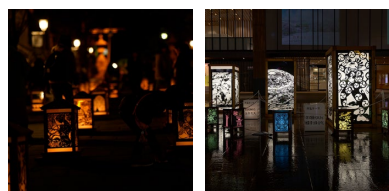
妙喜寺に残る地割れ跡

◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.21 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

★ 長野灯明まつり

長野灯明まつりは、1998年の長野冬季オリンピックの感動と躍動、そして恒久の平和への願いのレガシーを継承し世界へ発信するため、毎年2月に善光寺周辺と表参道で開催されます(2023年は2月9日から2月12日)。

平和への祈りを込めて、国際的照明デザイナー・石井幹子氏により善光寺がライトアップされ、まつりを象徴する情景が描き出されます。このほか、善光寺表参道は、作者の想いを切り絵に刻み、未来への願いを込めて灯す、800基の切り絵灯籠による光の道「ゆめ灯り絵展」で彩られ、境内には、畳一畳ほどの大きさの「ゆめ大灯籠」が配置されます。ライトアップ時間は午後6時から午後9時(最終日は午後8時)です。



長野灯明まつり HP より

～鉄道で巡る～

長野駅は、明治21(1888)年、「弥陀の十八願」にちなんで善光寺本堂から十八丁の場所に開業しました。参道には善光寺からの距離を示す「^{ちようせき}丁石」が約109mごとに、また、「四十八願」にちなんだ48基の灯籠があります。

現在 JR、長野電鉄、しなの鉄道の乗車駅になっており、名古屋からは「信濃路フリーきっぷ」がおすすめです。

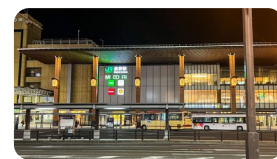


photo AC より

● ブレイクタイム ●

♪ 長野県立美術館

長野県立美術館は、長野県信濃美術館の建て替えにより、2021年4月に開館しました。美術品の展示のほか、市民活動や芸術家との交流スペースが設けられ、北側の東山魁夷館とは連絡ブリッジで結ばれています。また、両館間の水辺テラスでは、中谷芙二子氏の霧の彫刻の演出が行われています(冬期は休止)。美術館の建物の特徴のひとつが、東側の道路からほぼ同じレベルで広がる大きなデッキで、視線を遮るものなく、西に善光寺を望むことができます。



長野県立美術館 HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災と Seeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2023年2月)